

<2021年度 オリンピック・ムーブメント事業>

# JOCオリンピック教室

— 実施報告書 —

埼玉県 加須市立加須東中学校

Olympic  
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、  
オリンピック自身の様々な経験を通して  
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、  
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、  
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2021年4月～2022年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

### 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、  
チームワーク、フェアプレー、  
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



### 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、  
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、  
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、  
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、  
生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した  
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。



■ **オリンピック** : 中野 紘志 先生 (ポート) 【出場オリンピック / リオデジャネイロ大会】

■ **期 日** : 2021年12月21日(火)

■ **ク ラ ス** : 2年1組 / 運動の時間

○ 自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・自己紹介の後、運動の時間を通して、オリンピックやオリンピックバリュー「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つの言葉について、オリンピックだけではなく、皆の日常生活においても関わっていることを感じてほしい。この2時間を通してオリンピックに出場するまでの経験を交えながら、話していきたいと伝え、準備体操に移る。

○ 主運動 等



・新聞紙ボール運びリレー (全4回) を実施。  
新聞紙の四隅を2人で持って広げ、その上にボールを乗せて運ぶ。折り返し地点(コーン)を回って戻り、次の組にボールを渡し、その速さを競う。



・運動の時間を振り返り、皆が作戦タイムで考えてくれたことは、3つのオリンピックの価値であるエクセレンス : 「卓越」「諦めない」、フレンドシップ : 「友情」、リスペクト : 「敬意・尊重」「協力」にも繋がっており、行動に表れていたと称える。座学の時間では、オリンピックに出場するまでの経験を通じて、このオリンピックバリューがどのように繋がっているか話していきたいと伝え、授業終了。



■ **オリンピック** : 中野 紘志 先生 (ボート) 【出場オリンピック / リオデジャネイロ大会】

■ **期 日** : 2021年12月21日(火)

■ **ク ラ ス** : 2年1組 / 座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・ボート競技の日本代表としてリオデジャネイロ大会に出場したと自己紹介後、映像を見せながらボート競技について説明。  
 オリンピックバリューの3つの言葉について、自身の経験を交えながら、エクセレンス：「挫折や失敗しても前向きな気持ちを持つ」、フレンドシップ：「スポーツを通じて世界の人と繋がる」、リスペクト：「自分以外の周りの人を強く支え合う」等、自身が感じたことを説明し、グループワークに移る。

○グループワーク等



発問①：強く卓越するには自分に何を言い聞かせるのか、失敗や挫折した時に、どのように頑張ろうと思えるか、  
 どんな言葉を言われると駄目になるか考えよう。

発問②：自分の身の回りに、強いだけでなく優しい人がいるか考えよう。

発表：「応援や才能がある」「諦めない」「否定されると頑張れなくなる」「諦めたら終了」「やればできる」「励みになる言葉」「無理だと思うよ」「周りから褒められる」「安心させる言葉」「自分自身が頑張っていることを否定される言葉」等



・今後、目標や夢等に向かって挑戦していく中で、失敗しても自分を信じることや、何事にも最後まで諦めない気持ちを持ってほしい。周りの人を思いやる気持ちを持つことで、尊敬され幸せになる。これからの人生では、強く優しい人になって、前を向いて進んでほしいと伝え、授業終了。



■オリンピック：中野 紘志 先生 (ボート) 【出場オリンピック / リオデジャネイロ大会】

■期 日：2021年12月21日(火)

■ク ラ ス：2年2組 / 運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・自己紹介の後、ボート競技を知っているかを生徒に尋ねながら、ボート競技やオリンピックを通じて感じたり、学んだことはオリンピックだけではなく、皆の日常生活にも関わっていることを、運動と座学の時間を通して話していきたいと伝え、準備体操に移る。

○主運動等



・新聞紙ボール運びリレー（全3回）を実施。  
新聞紙の四隅を2人で持って広げ、その上にボールを乗せて運ぶ。折り返し地点(コーン)を回って戻り、次の組にボールを渡し、その速さを競う。



・オリンピックバリューのエクセレンス：「卓越」「諦めない」「頑張る」、フレンドシップ：「友情」、リスペクト：「敬意・尊重」について、運動の時間で取り組んだことに当てはめて説明し、次の座学の時間では、オリンピック出場に至るまでの経験等を話しながら、運動の時間に皆が感じたことが、どのようにオリンピックバリューに繋がるのかを考えていきたいと伝え、授業終了。



■オリンピック：中野 紘志 先生 (ボート) 【出場オリンピック / リオデジャネイロ大会】

■期 日：2021年12月21日(火)

■ク ラ ス：2年2組 / 座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・映像を見せながらボート競技やボートを始めたきっかけを説明。オリンピックバリューの3つの言葉について、自身の経験や運動の時間で感じたことを交えながら説明し、皆に強さと優しさを持った人になってほしいと伝え、グループワークに移る。

○グループワーク等



発問①：強く卓越するには自分に何を言い聞かせるのか、失敗や挫折した時にどのように頑張ろうと思えるか、どんな言葉を言われると駄目になるか考えよう。

発問②：自分の身の回りに、強いだけでなく優しい人がいるか考えよう。

発表：「諦めなければ目標に届く」「頑張ったと認めてくれる言葉」「ファイト」「大丈夫」「次はできる」「ナイス」「次も頑張ろう」「叱られる」「諦めたほうがいい」等



・座学の時間を振り返り、自分自身が挫折することがあっても、最後まで諦めず、自分を励ましながら何事にも自信を持って頑張してほしい。最後に、持参したオリンピック時に着用したスーツを披露しながら、目標があるからこそ失敗することもあるが、それを糧に前を向いて進んでほしいと伝え、授業終了。



■オリンピック：濱口典子先生(バスケットボール)【出場オリンピック/アトランタ大会、アテネ大会】

■期 日：2021年12月22日(水)

■クラス：2年3組 / 運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・自己紹介の後、オリンピックバリューの3つの言葉について、エクセレンス：「卓越」、フレンドシップ：「チームワーク」、リスペクト：「尊敬」「尊重」と意味を説明。運動の時間では、バスケットボールを通して、オリンピックバリューの中でも特にフレンドシップを第一に意識して取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。

○主運動等



・主運動では、パス&シュート競争を実施。  
班毎に分かれ、1つのボールを順番にパス(全員がボールを触る)をしながらシュートを決める。シュートが決まったら、マーカーを1つ持ち帰り、獲得したマーカー数による得点を競う。



・運動の時間に取り組んだ内容や作戦タイムで考えた内容等を振り返り、結果発表の際は全員でお互いを拍手で称え合った。次の座学の時間では、運動の時間を通して、考えたと感じたことを確認しながら、オリンピックバリューについて、一緒に考えていきたいと伝え、授業終了。



■ **オリンピック** : 濱口 典子 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック / アトランタ大会、アテネ大会】

■ **期 日** : 2021年12月22日(水)

■ **ク ラ ス** : 2年3組 / 座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・オリンピックシンボルの五つの輪について、下地を含めた6色で世界中のほとんどの国旗を描くことができることや五大大陸を意味し、世界各国・地域が繋がり、4年に1度オリンピックを開催している。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」、フレンドシップ：「友情」、リスペクト：「敬意」「尊重」と説明し、試合映像の後、自身の経験を通して、オリンピックバリューについて、さらに詳しく紹介した。

○グループワーク等



発問：運動の時間を振り返り、工夫したことや次はどのような工夫をするか考えよう。

発表：「バスケットボール経験者がパスを受ける回数を増やす」「パスをするときに声を掛け合う」「リバウンドを捕る人を決める」「両サイドにバスケットボール経験者を配置する」「ゴール下でシュート」「パスの順番を決める」「ボールを持つ人以外の前に出る」「パスする間隔を短くする」「他の班を応援」等



・アテネ大会で着用したユニフォームを披露しながら、シュートを打つときにも邪魔にならない軽い素材が使われていること等を紹介し、他国・地域の選手からユニフォームの交換を求められるぐらい素晴らしいもので、見えないところにも日本の卓越された技術があると話す。最後に、仲間を思いやる気持ちを持ちながら、今後の生活や学校行事に取り組んでほしいと伝え、授業終了。



■ **オリンピック** : 濱口 典子 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック / アトランタ大会、アテネ大会】

■ **期 日** : 2021年12月22日(水)

■ **ク ラ ス** : 2年4組 / 運動の時間

○ 自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・自己紹介の後、「オリンピックとはどのようなものなのか」ということを運動の時間を通して感じてほしいと、授業の目的を確認。オリンピックとは世界中の人が競技を通して自分の力や技術を競う大会であると説明し、オリンピックバリューの3つの言葉について、エクセレンス：「卓越」「努力」、フレンドシップ：「友情」「チームワーク」「友達」、リスペクト：「尊敬」「尊重」が深く関わっている。この3つの言葉の中でも特にフレンドシップの大切さを運動の時間を通して伝えたいと話し、準備体操に移る。

○ 主運動 等



・主運動では、パス&シュート競争を実施。班毎に分かれ、1つのボールを順番にパス(全員がボールを触る)をしながらシュートを決める。シュートが決まったら、マーカーを1つ持ち帰り、獲得したマーカー数による得点を競う。



・次の座学の時間では、オリンピックやバスケットボール競技を通して学んだことを話していきたい。運動の時間を通して、皆に一番伝えたかったフレンドシップについて、どのようなことを感じてほしいかを一緒に考えていきたいと伝え、授業終了。



■ **オリンピック** : 濱口 典子 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック / アトランタ大会、アテネ大会】

■ **期 日** : 2021年12月22日(水)

■ **ク ラ ス** : 2年4組 / 座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・オリンピックシンボルの五つの輪について、下地を含めた6色で世界中のほとんどの国旗を描くことができることや五大大陸を意味し、世界各国・地域が繋がり、4年に1回オリンピックを開催している。オリンピックバリューについて、自身の経験を交えながら、エクセレンス：「卓越」「ベストを尽くす」「一生懸命頑張る」「諦めない」「全力で取り組む」「努力する」、フレンドシップ：「友情」「仲間」「チームワーク」「お互いを理解する」「思いやり」、リスペクト：「敬意・尊重」「尊敬」「ルールを守る」と意味を伝える。

○グループワーク等



発問：運動の時間を振り返り、工夫したことや次はどのような工夫をするか考えよう。

発表：「バスを受け度す距離を短くした」「バスをするときに声を掛け合う」「配置とシュートの順番を決めた」「バスの方法やシュートを意識した」「相手を信じてバスをする」「入りやすいゴール下でシュートをする」等



・アテネ大会で着用したユニフォームを披露しながら、素材や縫製技術が優れていることや、国際大会で使用されているバスケットボールの多くも日本製で、その製造技術は卓越されていると紹介。最後に、一生に一度しか経験できない今の時間を大切に、仲間を思いやる気持ちを持って、今後の生活や学校行事に取り組んでほしいと伝え、授業終了。



■集合写真

・2年1組



・2年2組





■集合写真

・2年3組



・2年4組





■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



・2年3組



・2年4組



■ 修了証贈呈

